



医師



## 頭頸部癌について

耳鼻咽喉科部長 安藤 篤

皆さん今日は。皆さんは頭頸部癌という言葉に耳にされたことはありますか？おそらく、ほとんどの方は聞かれたことがないのではないのでしょうか？

耳、鼻、のどといった頭から首にかけてできる悪性腫瘍の総称です。(ただし、眼球および脳、脊髄、脊椎を除きます。)今回はこの皆さんにはあまりなじみがない病気についてお話しします。

頭頸部癌は全癌の5%程度しかありません。さらに、舌癌、咽頭癌、喉頭癌と細かく分けていくとその一つ一つの臓器についての数はとても小さくなります。しかし、近年高齢化とともにその発生率が増加傾向にあり、今後も増加していくことが予想されます。また、人パピローマウイルスに関連した若年者の口腔がん、咽頭癌の増加が欧米では問題となっております。

頭頸部領域は、しゃべることや食べること、味やにおいといった感覚と関連しており生活の質に重要な役割を持っています。また、他の臓器との距離が小さく機能を残しながらしっかりと治療を行うことが難しいのです。進行がんでは基本的には標準的治療は手術療法となります。その場合、

大きな機能障害を残すことが予想されます。ただし、近年では抗がん剤治療、放射線治療の発達により手術を望まれない方にも以前より根治性が高い治療が提供できるようになってきており、治療の選択肢が増えてきています。残念ながら、手術療法以外の場合でも生活に大きな不自由が残る場合もあります。病気が治るためにはもちろんですが、機能障害を軽くし、よりよく治るためにも癌の早期発見がとても重要です。幸いなことに口の中やのど、鼻の中は比較的容易に観察することができます。又最近ではNBIといった早期ガンの発見に有用な器具が開発されています。(もちろん万能ではありません。)

この病気の症状はのどが痛い、飲み込むとつかえる、のどに何かできている、首が腫れた、鼻血が出る、においがしないといったものです。そうです。かぜをひいた時や蓄膿症の時と同じような症状です。そのため、上記の症状が長く続く場合には放置せずに耳鼻咽喉科に受診するようにしてください。

喫煙や飲酒(特にすぐ顔が赤くなる人はより危険です)が発がんの危険因子です。お好きな方は特に注意が必要です。

★「フィリア・レター」は、中部ろうさい病院が、患者さまに向けて当院の現況や新しい医療情報などを発信したり、患者さまの建設的な意見を反映する広場として発行しています。